

令和3年9月16日

(あて先) 千葉市議会議長

議席番号23番 氏名 酒井 伸二

質 問 主 意 書

千葉市議会会議規則第61条の2第2項の規定により、質問主意書を提出します。

【質問項目・内容】(3項目6問以内)

1. コロナ禍の諸施策について
 - (1) 今後のワクチン接種のあり方について
 - (2) 社会のデジタル化への対応について
 - (3) オンライン授業の実現について
2. 地域交通施策について
3. 人と動物の共生する社会について
 - (1) 地域課題への対応体制について
 - (2) 本市動物行政の目指す方向性について

【質問文】(900文字程度)

1. コロナ禍の諸施策について3点伺う。

ワクチン接種予約を巡り、ストレスを訴える声が多く聴かれた。3回目の接種もしくは第二クルーの接種に向け、全国の好事例も参考の上、より効果的な手法を模索すべき。これまでの総括と合わせ、今後の検討の内容、方向性を伺う。

コロナ禍で社会の各分野でオンライン化、リモート化が加速している。行政相談におけるリモート環境の整備、市民のデジタルデバイドの解消、街なかの無料Wi-Fi環境整備は自治体の必須命題と言える。一層の取り組み強化に向け、どのように取り組むのか伺う。

GIGAタブを活用した学習保障環境の整備として、休校時はもとより、学校開設時においても欠席を余儀なくされる児童生徒向けなど、オンライン授業の実現に期待を寄せる声は多い。また就学援助制度においてオンライン通信費も対象とすることを求めてきた。どのような考え方のもと、どのように進めるのか、現状と今後について伺う。
2. 地域社会の高齢化、高齢者の免許返納が進み、都心地域にあっても「バス停が遠い」「便数が少ない」等の声は多く、生活を支える身近な移動手段確保を求める声は多い。千葉市地域

公共交通計画における最新の検討状況及び具体の実現手法等、スケジュールを含めた見通しについて伺う。

3. 人と動物の共生する社会の実現に向けて2点伺う。

国民の三人に一人がペット飼養する時代に入り、無責任なエサやり、不適切飼育、ペット同行避難等の問題は、現代の新たな地域課題と言え、自治体の対応体制のあり方が問われている。住民自治や地域防災などを所管する区役所においても一定の役割を担うべきであり、人と動物の共生をテーマに生涯学習や社会教育へ展開するなど教育的啓発も必須と考える。こうした庁内連携の可能性について各所管部局の見解を伺う。

8年前、国が「殺処分をできる限り減らし、最終的には殺処分ゼロにすることを目指す」と呼びかけて以来、全国的にその数は大幅に減少したものの、自治体による「ゼロ達成」の目的化がもたらす弊害も指摘されている。（最終的に殺処分ゼロにつながる）「いのちの遺棄、虐待がなくなる社会づくり」といったプロセスこそ目指す方向性としてより強調した上で、その実現の為の施策充実に邁進すべきと考えるが、当局の課題認識及び考え方を伺う。